

2011年2月18日

## **SAAJ** NEWS RELEASE

### IFRS 財団「評議員会の戦略レビューの現状」について意見書を提出

(社)日本証券アナリスト協会(会長:稲野和利 野村アセットマネジメント会長)は、2010年11月に公表された公開協議資料「評議員会の戦略レビューの現状」について意見書を作成し、2月18日(金)にIFRS財団・評議員会へ提出しました。

#### 【意見書のポイント】

- ✓ 我々は基本的に、IFRS財団がモニタリング・ボード、評議員会、IASBの3層構造で、現行の定款が定める目的に沿って活動を続けていけば、高品質、理解可能、かつ法による執行可能な国際的に認められた財務報告基準が実現すると考えている。個別基準の開発過程で定款の目的から外れた様に見えることもあるが、定款の目的を実現するという強い使命感を忘れずに、IFRSの開発を続けて欲しい。
- ✓ 金融システムの安定性に責任を持つべきは金融規制・監督当局であり、会計基準設定主体ではないことを強調したい。金融規制・監督当局との情報交換は必要ではあるが、会計基準設定主体は高品質で透明かつ比較可能な財務情報の投資家への提供を最優先すべきである。会計基準設定主体であるIASBのIFRSに関する決定権は、最大限尊重されるべきと考えている。
- ✓ 現行の基準設定プロセスは概ね妥当で大きな変更は必要ないが、以下2点を改善して欲しい。第1は、いくつかの個別基準の開発過程で、過去に公開したDPと全く異なる基準案や逆戻りした様な内容の案が再提示された点である。寄せられたコメントを踏まえて基準案を修正するIASBの姿勢は高く評価できるが、フィールドテストなど事前準備のさらなる充実を図って欲しい。第2は、アウトリーチなどで何が論点になっているかが、参加者以外には解り難い点である。アウトリーチやラウンドテーブルでIASBが確認したい論点、その場に出た意見など議論の内容を迅速に公開して欲しい。

#### 【添付資料】

資料1 *re: Comments in Response to Paper for Public Consultation,  
"Status of Trustees' Strategy Review"*

資料2 「評議員会の戦略レビューの現状」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

(社)日本証券アナリスト協会

電話: 03-3666-1577

担当: 教育第一企画部長 かいます 貝増 眞